令和８年６月号　志布志市立蓬原小学校

蓬原の子

「タイミング」

校長　　徳田　賢一

多くの保護者の皆様に御協力いただき、６月21日(日)の早朝から、PTA奉仕作業が行われました。日常の環境整備ではなかなか手を入れることのできない体育館裏の急斜面や校舎裏の土手など、プール外周の隅々まできれいに刈り揃えていただきました。

また、午後からのサッカーワールドカップのチュニジア戦のキックオフと同時に学級対抗ミニバレー大会の開会式が行われ、このタイミングでの先取点に体育館が歓声に湧きました。その後もステージ上の大画面で観戦しながら、コート上でも白熱した戦いが繰り広げられました。優勝した５年生、準優勝の２年生、歴史的大勝を収めた日本代表おめでとうございます。そして御参加いただきました全ての皆様に感謝申し上げます。

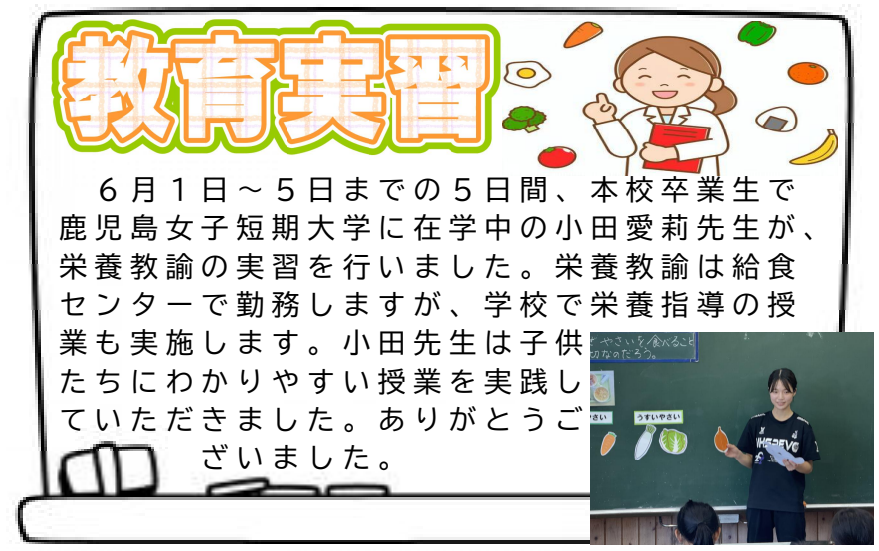
さて、学習活動における児童と教師の関係もタイミングが大切です。児童が知りたい、学ぼうとしているサインを教師が見逃しては絶好のチャンスを見逃してしまうことになります。教師はその使命感から、ついついあれもこれもと限られた時間の中で教えたがる傾向にあります。

中国の古い仏教書「碧巌録」に、「啐啄同時」（そったくどうじ）という言葉があります。「啐は驚く、叫ぶ、呼ぶ」、「啄はついばむ」という意味です。卵の中のヒナが殻をコツコツつつくことを「啐」、ちょうどその時、親鳥が外から卵の殻をコツコツつつくことを「啄」と言います。両者が一致してヒナが生まれることから「絶好の好機、またとない好機」を表す言葉として使われます。卵の中のヒナがつついている（啐）のを親鳥が気付かなかったり、つついていないのに親鳥が殻を破って（啄）もいけないのです。タイミングを合わせなければなりません。

自戒を込めて思い起こせば、児童がサインを出していないのに、教師が殻をつつくことの方が多いようです。だからといって、ただその機会をじっと待つということではありません。内側からつつかせるような準備や刺激を仕掛けることが必要です。

子供は成長の過程で親離れをしていきます。親もこのタイミングで子離れをする必要があります。まさに「啐啄同時」が、子供の自立にとって大切です。ところが、子供は学校で集団で生活しています。子供同士のネットワークを持っています。ともすれば、子供の親離れの方が早く、親の子離れが遅れたりする時があります。そうなると自立の大切な機会を逃してしまいます。子供のサインを見逃さないようにするには、子供のネットワークに負けない大人のネットワークが必要です。PTA活動を通して保護者間の繋がりがより密度の濃いものになるといいですね。この先も良好な親子関係を築いていくためにも、子供とは適切な距離感を保ち、成長した子供を信頼していきましょう。

６月１日に『芸術鑑賞会』が本校体育館で行われました。今年度は、カンマームジカンテンという音楽集団をお招きして開催されました。カンマームジカンテンは、歌・ピアノ・フルート・クラリネット・ファゴット・ヴァイオリン・コントラバス・パーカッションを奏でる８人の音楽家のグループです。絵本や物語の世界を音楽で表現したり、それぞれの楽器の特徴を生かした演奏をしたり、実際に役者になって演じてみたりするなど、様々な手法で子供たちを楽しませてくださいました。当日は、「古い蒸気機関車エリ」「スイミー」「手遊びうた」「ブレーメンの音楽隊」の演奏がありました。蓬原小学校の校歌も演奏していただき、みんなで一緒に歌いました。とても楽しいひとときを過ごせました。



６月１日～５日までの５日間、本校卒業生で鹿児島女子短期大学に在学中の小田愛莉先生が、栄養教諭の実習を行いました。栄養教諭は給食センターで勤務しますが、学校で栄養指導の授業も実施します。小田先生は子供たちにわかりやすい授業を実践していただきました。ありがとうございました。